

りの事故件数が道内で最も多かったのは根室管内の78.5件だった。

事故原因では、トラクターやポテトハーベスター、ビートハーベスターなどを扱っていた際の農業機械関係が198人。次いで牛、馬、豚に関する家畜関係が多く、牛を扱っていた際の事故は173人。他に転倒が32人、高所転落が19人と目立った。

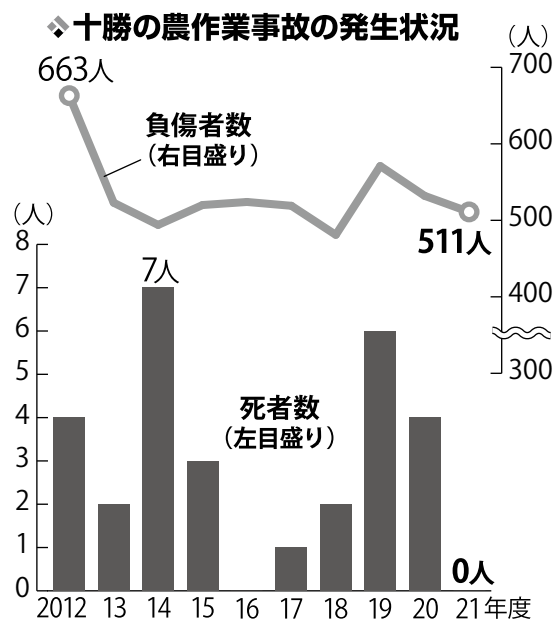
60代以上が183人で全体の3分の1を占めた。男性が344人、女性は167人で、どちらも60代以上で負傷者が最も多い傾向が続いた。

全道の死亡事故は前年と同じ16人。うちショベルローダー類が5人、トラクター4人、トラックや除雪機など各1人だった。地区別では空知と上川管内が各5人で多く、日高も2人だった。負傷事故は前年度より4人少ない2,148人。家畜による事故が774人、農業機械によるけがは663人だった。

過去10年の統計を見ると、発生時期は死亡、負傷ともに春の作業期と秋の収穫期に多発。時間帯は死亡、負傷のどちらも午前10時台が目立つ。全道的に死亡は農業機械関係、負傷は家畜が原因のケースが多い。

今年度は9月までに、道内で7件の死亡事故が発生。管内では4、5月に更別村内で起きた。根室、上川、後志管内で9月に入ってから各1件発生している。

秋の農作業安全運動を実施中の同本部は「1日の作業予定を共有したり、緊急事態に備えて携帯電話を常に携帯したりする習慣が救命や事故防止につながる。日頃から家族や従業員と作業手順などについて話し合い、事故防止の意識を高めてほしい」としている。



農協連ビル完成祝う 90人出席で竣工式 19日から全館利用 2022年12月2日(金)

十勝農業協同組合連合会(若園則明会長)は2日、帯広市西12南6に完成した新農協連ビルの竣工(しゅんこう)式を開いた。現ビルの農業関係団体の事務所などが入り、5日から一部で使い始め、19日からは全面的に業務を開始する。

管内各JAの組合長や入居する団体・企業から約90人が出席した。午前11時から開かれた式典で若園会長は「国内最大の食料基地・十勝の役割と期待は大きい。農業情勢は非常に厳しいが、新ビル完成を節目に新たな決意で努力し、与えられた使命を果たしたい」とあいさつした。

来賓を代表して十勝地区農協組合長会の有塚利宣会長、十勝総合振興局の芳賀是則局長、ホクレンの篠原末治会長が祝辞を述べた。

建物の外観は、十勝の土と畑をイメージした色合いと格子模様のデザイン。内覧会で出席者は、延べ床面積が現ビルの1.7倍となった館内を見学。西側の窓から見える日高山脈や競馬場の眺めに目を見張った。

現ビルの老朽化に伴い、帯広競馬場敷地内の道道共栄通に面した約2万平方メートルに建設された。鉄骨造5階建て、延べ床面積9,000平方メートル。現ビルの3倍になる479台分の駐車場を設けた。十勝農協連やJA道

中央会、ホクレン、JA道信連、道農業公社、JA共済などが入居する。引っ越し作業は今週末から3回に分けて行い、19日から全面的に業務を始める。



執務室など施設を見学する関係者